

## 令和7年度第2回埼玉県高齢者支援計画推進会議 会議録

日時：令和8年3月24日（火）

### 質疑応答

発言者	発言要旨
議長	<p>本日の議事は合計(1)から(4)の4件となっております。進め方ですが、まず、議事(1)につきまして、事務局から説明をさせていただきました後、本日御出席していただいている委員の皆様、全員から県の取り組みや政策に関して御意見を頂戴したいと思っております。当日で恐縮ですが、よろしくお願ひします。ただ、時間の限りがございます、大変恐縮ですが、お一人3分以内でお願いできればと考えております。よろしくお願ひします。</p> <p>議事(1)第9期計画に関連する主な事業の実績について 事務局から資料1により説明</p>
議長	<p>先ほど申し上げましたが、御出席の委員の皆様から御意見について伺えればと思っております。お配りしている委員名簿の順で、お一人様3分以内で御発言をお願いできればと思っております。なお、この場でお預かりする御意見につきましては、担当課において今後の参考とさせていただきます。時間の都合もあり、この場で担当からの回答や説明は行わないこととさせていただきますので、予め御了承いただければと存じます。</p> <p>埼玉県介護支援専門員協会の入江委員、お願いできますでしょうか。</p>
入江委員	<p>やはり人材確保のところが現場ではすごく直面している問題です。特に在宅を支えてくださる訪問介護の部門が、事業所の閉鎖あるいは定年退職した人材が多いというところで、本当に思うような調整ができないということが起こっております。私たちのようなケアマネジャーも含めてなのですが、業務内容が多岐にわたるというところもそうですが、近年の傾向で多問題の家庭が多いというところで、要介護高齢者のみの支援ではなく、家族支援も含め、あとは障害から介護保険に移行する方々も含めて、その障害も多種の障害がおありになりますので、そのあたりも熟知しながら、学びながら、連携</p>

	<p>を持ってできるような力をさらにつけていかなければならないということがございますので、そのバックアップをするには、よく言われます大規模化ということも考えるのですが、なかなか独立型のケアマネ事業所も増えている傾向だと地域では拝見しております。その辺も含めまして、さらに連携を取っていき、多職種の業務における連携というよりは、地域の顔の見える関係づくりというのをさらに深めつつ、ものがちゃんと言い合えるような関係を築かないと、どこかに歪みが出てダメになるなと思っています。そういう意味で、人材の確保、定着とかイメージアップのところは、やっていただいている事業プラス、自らも地域で頑張ろうかというお話が出ております。</p>
議長	<p>ありがとうございました。人材のお話をいただきました。埼玉県看護協会の各務委員お願いできますでしょうか。</p>
各務委員	<p>看護協会の方でも、先ほどケアマネジャーの方がおっしゃったように、人材確保というのがとても大きな課題かと思っております。在宅を支える訪問看護師をはじめとして、老健施設と特養等で勤めている施設で働いている看護職というところは、とても人材不足が叫ばれておりますけれども、もういない人はいないんだ、離職をさせない、とにかく働き続けてもらえるような支援をしていこうということが一つの目標と思っております。その中で人を育てていこうとする施設での体制、労働者を守るという姿勢を組織全体で作っていかなければならないところで、看護協会では、この領域で働く看護職たちの委員会の大きな柱としてもう離職させない、そして働き続けられるところに焦点を置いて、人材の育成であったり、労働者を利用者から守るという研修等を粛々と行っているところです。</p>
議長	<p>ありがとうございました。人材のお話を再びいただきました。続きまして、埼玉県国民健康保険団体連合会の唐橋委員、お願いできますでしょうか。</p>
唐橋委員	<p>人材の確保については、国保連合会では、処遇改善の補助金、国で補正等</p>

	<p>で措置されてますけど、これにつきまして、県から委託を受けて、補助金額の積算などの業務を行っております。引き続き適正な積算ができるように、役割を果たしていきたいと考えております。全体で言いますと、今回、第9期の実績で、次第10期になりますけど、医療との連携が医療保険の持続可能性を高める上でも、大変重要になってくる。で、それぞれ医療、介護、次期の計画連携がポイントになっているかと思いますが、大変難しい課題かと考えております。県につきましても、また我々含めて各種団体につきましても、しっかりした連携が図れるように、それぞれに役割果たしていけたらと考えております。</p>
議長	<p>ありがとうございました。医介連携のお話を頂戴しました。続きまして、埼玉県市町村保健師協議会の平委員お願いできますでしょうか。</p>
平委員	<p>私の方からは、第3節認知症政策の総合的な推進のところをお話しさせていただければと思います。市町村では、チームオレンジの整備などに取り組んでいて、各市でいろいろな取り組みをされているところでございますが、先進的な取り組みをしている自治体もあれば、やっとチームオレンジが立ち上がって、この先どういうふうに展開していったらいいんだろうというところが結構悩んでいる市も多いかなというところがございます。また、10期計画にこの認知症政策の総合的な推進をどのように盛り込んで、10期計画でどういった事業を展開していくのかというあたりに、本人参画といったことも含めて、市町村としては迷うところです。なので、県には先進事例の紹介等々、お願いできればと考えております。</p>
議長	<p>ありがとうございました。認知症の関係の御意見を頂戴しました。続きまして、埼玉県社会福祉協議会の塚越委員お願いできますでしょうか。</p>
塚越委員	<p>今回は、もちろん高齢者中心ではございますけれども、私どもでは、障害や保育・児童といった種別の協議会の事務局も担っております。皆様の共通の課題が大きく二つで、一つ目が今回も上げていただいている人材確保、そ</p>

	<p>して定着のところ、二つ目は物価高騰でございます。今回、高齢者分野でありますけれども、人材確保・定着のところを、引き続きお取り組みいただけるということで、本会としてもとてもありがたいと考えております。合わせて、外国人材、ICTの関係もございましたけれども、本会の方でも今年度新たな部署を新設し、この二つの取り組みを進めております。今後も、県と力を合わせて、取り組みを進めていければありがたいなと思っているところでございます。</p> <p>もう1点、最初に福祉避難所の関係でお話ございましたけれども、私どもの方でも、DWATという避難所におられる福祉的な配慮が必要な方への支援を、福祉関係者が協力して行う取り組みを進めております。この取り組みでも県とともに、医療系の皆様とともに活動を行っていければと考えております。今後も県の皆様と力を合わせて、取り組んでいきたいと存じますので、引き続きよろしく願いできればと存じます。</p>
議長	<p>ありがとうございます。埼玉県町村会越生町長の新井委員お願いできますでしょうか。</p>
新井委員	<p>私どもの方も、離職者が非常に多いので、人材確保等をしていただきたいのと、労働環境をよくしていただきたいと思っております。</p>
議長	<p>ありがとうございます。人材のお話をいただきました。続きまして、埼玉県認知症グループホーム・小規模多機能協議会の高野委員お願いできますでしょうか。</p>
高野委員	<p>自分の領域だと、やはり第5節の介護人材の確保というところなんですけど、やはり人材が慢性的に足りない状況が続いています。私も求人とか、いろいろやっているんですが、人材紹介会社とかから紹介されるパターンで入社する人が多いのですが、手数料的に経営を圧迫するところもあります。今やっている求人情報を掲載したポータルサイトは、検索をしても人材紹介会社の順番が上に出てきます。検索の時にポータルサイトが上に出てくるな</p>

	<p>ど、手数料もかからずお互いウィンウィンになるような、あとはSNSとかで周知していただき、そこからの入口で入ってきてもらえると、非常にこちらも雇用に繋がりがやすいかなと思います。</p> <p>あと外国人の方なんですけど、うちの会社はまだ外国人の方が少数しかいないんですが、今日本に来て働くというメリットが、お金を稼ぐというところでは、今だだいぶ円安に振れちゃってる部分もあるので、今後円高になればいいんですけど、もしそうじゃないのであれば、世界的に人材というのは結構不足してるって話を聞くので、お金以外の魅力というか、そういったものを提供できればいいのかなと思います。昔の感覚ですつと行くと、だんだん日本に来るメリットというのがなくなってきてしまうと、見通し通りに、外国の人が来てくれないんじゃないかなという懸念がありました。</p>
議長	<p>ありがとうございました。外国人材も含めた人材のお話を頂戴したところです。それでは続きまして、埼玉県民生委員・児童委員協議会の中村委員お願いできますでしょうか。</p>
中村委員	<p>民生委員は、地域の皆様、特に独居高齢者を主に見守り、相談をしていますが、内容によっては包括、行政につなぐ活動をしています。包括、行政の皆様は大変な役割を担っていると思っております。包括につないだあとも、在宅介護の場合は訪問してお話を聞くと喜ばれている方が多く安心しております。ただ、入所する場合は、なかなか特養に入れられない状態になっております。今回は増やしていただき少しはいいのかなと思いますが、これから、団塊の世代が80歳を超え、独居の人が増え、特養の必要性が望まれます。これからは、もっと特養を増やしていただきたいと思っています。</p>
議長	<p>ありがとうございました。特養のお話を頂戴しました。続きまして、埼玉県薬剤師会の宮野委員お願いできますでしょうか。</p>
宮野委員	<p>ただいまの資料1の中に、具体的に薬剤師ということは出てきてはおりませんが、1節から5節まで薬剤師が関わっております。と言いますのも、高齢者</p>

	<p>の多くはやはり薬の服薬というのを、ほとんどの方がされています。在宅医療に関わる前の通院というところでは、やはり多剤併用、多科受診というのが大変問題になっており、ポリファーマシー事業に関しては、長年取り組んでいるところでございます。やはりその多剤併用が、ADLの低下、または認知機能の低下に影響を及ぼしてくるということは言われてきているところでもありますので、現場としましては、地道にその取り組みは続けていきたいと思っております。</p> <p>またそれに伴いまして残薬というのが問題になっております。今、6月から報酬改定などが行われていますが、訪問看護師さんの報酬改定の中にも、残薬をもし御家庭の中で見つけたら、かかりつけ薬剤師薬局に教えていただくことみたいなのも謳われたと聞いておりますので、その辺のところ、連携を取ってやっていきたいと思っております。</p> <p>また、認知症政策のところでは、適切に認知症の方、または、認知症が疑われる方への対応ができる薬局薬剤師の数というのも、地道に増やしていただいておりますので、そこでも高齢者の施策に役立っていくと思っております。人材の確保が今かなり言われておりましたが、グループホームにいたしましても、特養にいたしましても、薬剤師が訪問し、お薬配薬などをしております。積極的に治す医療から、支える医療への薬剤の関与というのに関しても、地道に仕事をしていきたいと思っておりますので、施策のほうでまた役立つこともあると思っております。よろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>ありがとうございました。続きまして埼玉県老人クラブ連合会の玉水委員 お願いできますでしょうか。</p>
玉水委員	<p>私たち老人クラブは、見守りだとか、あるいは友愛活動を通して一人一人に触れ合い、支え合いながら日々活動をさせていただいております。特に誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていけるためには、やはり行政による支援のみならず、地域住民、関係機関あるいは団体等が相互に助け合いながら支え合って、地域のつながりを形成していくということが一番大事ではないかなと感じております。第4節の特養のことでお伺いしたいと思うんで</p>

	<p>すけれども、私の会員の中で去年、2階の階段から落ちてお尻の骨を折りまして、約一ヶ月半入院をなさって、それで退院をしてきたんですけれども、一人で生活するのがちょっと困難になりました。どこか介護施設に入りたいということで、一人暮らしですので兄弟もいないし、お子さんもいない方で、私のところに頼ってきたんですけれども、それでは介護施設に紹介をしてあげるねということで、特養に入りたいということで、何度か特養をお願いをしたんですけれども入れませんでした。特養というのは、稼働率は埼玉県としてはどのくらいなのでしょう。</p>
議長	<p>ありがとうございました。御質問については後ほどこの場か、もしくは後日メールでお答えをさせていただいてもよろしいでしょうか。</p>
玉水委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
議長	<p>続きまして。埼玉県老人福祉施設協議会の高木委員お願いできますでしょうか。</p>
高木委員	<p>我々は多くの特養が会員になっていただいている協議会なんですけど、施策5-1の介護ロボットICTの補助金については、今年度かなり拡大していただきまして、常に我々介護職員走り回っている中で、介護業務の負担軽減に相当役立っているという喜びの声は、私たちの地域でも、うちの施設でもそうですが、聞いております。さらにこの外国人材については皆さんも言及されてたと思うんですけど、数年前、コロナ前ぐらいは日本人が採用できなくて、外国人材に頼らざるを得ないみたいな発言も私もしていたと思うんですけど、今は質の高い、介護福祉士の資格を持った外国人材も多くなってきておる中で、悲しいことに、これから日本人が少子高齢化が改善されてたくさん増えていくということは、やはり努力は惜しまないですけども、改善しにくいということで、外国人に頼らざるを得ないじゃなくて、もっと質の高いケアができる外国人材をたくさん雇用して増やしていくという切り替えが、我々特養の中でも考え方として増えてきております。それに対して、今も外国人材</p>

	<p>の補助金とかも手厚くしていただいているとは思いますが、特に受け入れ後の生活支援、さらには語学力の支援等を手厚くすればするほど、外国人材の定着率が上がってくる。それに伴って、3年後の国家試験で介護福祉士の資格を取って、介護をしている中では永住できる。家族も呼んで、収入も高くなって、さらに質の高い介護を行っていく人材になっていくというのが、今、特養でも、うちの施設でも、バリバリと資格を取って意欲を高めている外国人材が増えてきてますので、引き続き外国人材の支援を手厚くいただきたいと思います。我々特養の自助努力ももちろん必要だとは思いますが、やはり地域で支えていくような取組も、結構県外や直接ベトナムだったり、ミャンマー等の国から都道府県を選んでくるといふ兆候がありますので、地域で支える仕組みも、自助努力とともに必要なんじゃないかなというふうに感じております。</p>
議長	<p>ありがとうございました。続きまして全日本病院協会埼玉支部療養病床部会の富家委員をお願いします。</p>
富家委員	<p>特養について、建築費の高騰に対して増額していただいているんですけども、令和8年はさらに建築費高騰していて、新築での特養の整備がかなり難しいくらい建築費が高騰しています。整備をさらに進めていくのであれば、現在の状況に沿った増額の検討をしていただきたい。建築費の高騰が賄えるような運営費をいただいている状況ではないので、御検討いただければと思います。また、ICTの補助金は非常にありがたかったのですが、今、ICTって買えば終わりじゃなくて、サブスクになっております。私どものところでは、ブルートゥースインカムを入れさせていただいたんですけども、機械代と一年目のサブスク代は出るんですけども、二年目からは出ないので、これに対してもこれから先ICTというとイコールほぼほぼサブスクになるとなると、そのサブスクというシステムに沿った補助を検討していただけるとありがたいというふうに思っているところでございます。</p> <p>認知症に関しては、私はふじみ野市で、個人的には、初期集中支援チームと、認知症相談会の相談員をやらせていただいているんですけども、その</p>

	<p>中でチームオレンジという単語はあまり耳にすることがないのですが、もうあと残り13市町村だけというふうになってるとなると、多分ふじみ野市もチームオレンジができていないかなというふうに思うんですが、今検索してみたんですけれども、認知症初期集中支援チームをもってチームオレンジとしているという市区町村もあると出てきたので、そのような解釈に埼玉県もなっているのかどうかを教えてくださいたいと思います。</p> <p>最後に、介護人材についてなんですけれども、厚労省がやっている技能五輪の中で、介護職種は去年はエキシビションで、今年から本格的に種目として出ました。ただ、今の段階では、あの全老健や日本慢性期医療協会などそういった団体から2名ずつというような選手の輩出ということになっているんですけれども、他の技能五輪の職種を見ると、いわゆる甲子園のように県選抜とかというところの技能五輪もあるようでございます。それに対して県の方から御支援をいただくと、より埼玉県での介護職員のモチベーションが上がって、定着・育成につながっていくんじゃないかなというふうに、遠回りですけども期待ができますので、御検討いただければというふうに思います。</p>
議長	<p>ありがとうございました。御質問の部分を整理して、お時間があればこの場、もしくは後日メールでお答えという形にさせていただきたいと存じます。また、補助金等の御要望についてはしっかりと承りました。続きまして、公募委員の引田委員、お願いできますでしょうか。</p>
引田委員	<p>3点お話ししたいと思います。一つは資料1の特養に関してなんですけれども、私はケアマネジャーをしております、女性の方の収入で、国民年金の収入で入っていける施設というのが特養しかないんですね。ほとんどの施設は、有料であれ、グループホームであれ。その他16万円以上、中には公的なものであっても30万円ぐらいかかるところがあります。ですから、今後、県が特養とだけ書いていらっしゃるけれども、これは従来型の多床室のことなのか。あるいは、ユニット型のことを目指しておられるのか、知りたいなとは思っておりました。それで、特に多床室に関しては、今はいろんな建</p>

<p>議長</p>	<p>築技術によってお互いのプライバシーが守られる新しいタイプの設計がしてありますので、なるべく安く入れる、そういう施設が増えていくことを望んでいます。</p> <p>2点目は資料3の厚生労働省の在宅医療について、私も訪問診療などはよくお願いすることがありますが、ほとんどの場合、がん末期の最後の最後を在宅で見守ろうという時に訪問診療をお願いしています。ただ、最近私が担当する方たちは、初期認知症の一人暮らしであったり、御夫婦が認知症の2人暮らしであったりして、実際に受診していくということが大変な苦勞になってきました。というのは、移送機関というのを予約することがもはや御本人たちにはできませんし、今の介護保険では受診中の付き添いですとか、あるいは受診手続きなどはまだ介護保険が対応しておりませんので、別の福祉有償のサービスであったりするのを別個にお願いするというふうなことで、対応が大変難しくなってきました。もし一般的なかかりつけ医に値するような訪問診療が一般的になっていけば、どんなにいいだろうというふうに思っています。お家に来てくださった昔に戻るような形になりますけれども、そういう、認知症の方のための受診というもう一つのあり方を考えていただければありがたいと思っています。</p> <p>3点目はたまたま昨日、福祉のサービス提供事業者が移送に使っている車のステッカーを見て、そこには「入所者・利用者募集中」と書いてありました。客を募集中など書いている商店はないと思うんですね。お客様というふうに、きちんと敬語を使って募集しているはずです。やはりまだまだお年寄りに対する福祉というのが、してやっていると上から目線なのかなと思って、昨日ちょっとショックを受けました。根本的なところで、人生の先輩たちを大切に支えていくという姿勢が言葉にも現れるように、常に敬語で、その方たちのことを対応するような方向性を出していただけないものかと思っております。</p> <p>ありがとうございました。1点目が特養整備の関係で、皆さんが入りやすくというふうな趣旨と受け止めさせていただきました。また、2つ目の訪問診療、日常も含めてですけども、訪問診療医をもっと増やしてほしいという趣</p>
-----------	--

	<p>旨で受け止めさせていただきました。3点目につきましては、我々も含め、もしかしたら今日いらっしゃる委員の方々もですね、御意見として受け止めていただければというふうに思っております。ありがとうございます。</p> <p>急なお話で、また時間制限の中、委員の皆様から多くの御意見をいただきました。一部後ほど御回答となりましたけども、皆様からの意見は受け止めさせていただきまして、今後の取り組みもしくは次期計画の参考とさせていただきますと存じます。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、第9期計画に係る来年度の主要事業につきまして事務局から説明をさせていただきますが、これから御説明する来年度の主要事業につきましては、現在開会中の県議会に予算案として提案中でございますので、この点について申し添えさせていただきます。事務局の方、説明をお願いします。</p> <p>議事（2）第9期計画に係る来年度の主要事業について 事務局から資料2により説明</p> <p>議事（3）第10期埼玉県高齢者支援計画について 事務局から資料3により説明</p> <p>議事（4）ねんりんピック彩の国さいたま2026について 事務局から資料4により説明</p> <p>議長 以上で本日予定していた議事は全て終了となりますが、埼玉県介護老人保健施設協会の宮崎委員に、今回の計画もしくは次期の計画に向けて、現場で今後もっと課題になってくることなど、現場で起きていることも含めて少しお話しいただきますと幸いなのですが、いかがでしょうか。</p> <p>宮崎委員 特に施設とかだと、食費はすごくかかっているのと、業者さんをお願いすることがやっぱり増えているので、契約料がだいぶ跳ね上がってきていて、すごく施設運営には苦しいというのは自分のところも含め、どこの施設もお</p>
--	--

議長	<p>っしゃっています。</p> <p>ICTに関しては、自分のところは結構入れてるんですけども、やっぱりどうしても更新しなきゃいけないものも多いので、そういったことに対しても、御支援いただけるとすごく助かるなと思っております。新しいもの、またトライするのもすごくいいとは思っていて、そういったことで、積極的にできるところはどんどん使えるような形にしていただけるとすごく助かるなと思いますし、使わせていただいている面も多いので助かっております。あとは施設によってもすごく違うので、ICTとかも導入がどんどん進むといいなというところと、大きいところと小さいところだと、すごく差が出ちゃうので、その辺を県の方で支援していただけると助かるかなと思っております。</p> <p>訪問診療に関しては、ちょっとまだ導入まではできてないですけど、施設と同じような見守りシステムみたいなのが、在宅でもどんどん使えるようになると、訪問の時にすごく助かるんじゃないかと思います。うちは小川町でやってるんですけども、よくスタッフが言うのは、みどうの杜の施設が小川町になったと思うと、その見守りのシステムも家ごとにあると、部屋ごとにあるのと一緒なので、高齢者の方がお家で安全に過ごすためには、そういったものがどんどん導入できるといいんじゃないかという話をしております。県には色々と御支援の方を考えていただいているので助かっております。どんどん使いやすいうように考えてくださっているので、私の方でも何かあったらまたお願いしたいと思っています。</p> <p>ICTのランニングに対する支援というのも先ほど、富家委員から同じような御意見を頂戴したところです。ありがとうございます。御意見として受け止めさせていただきます。</p> <p>議事につきましては以上で終了いたしました。先ほど各委員からお話しいただいた中で、いくつか事業内容の確認等のお話もございました。少しここでお時間があるので、事務局の方で何か回答できるものがございましたらお願いします。</p>
----	---

地域包括 ケア課長	<p>富家委員のチームオレンジのお話にお答えしたいと思います。チームオレンジはボランティアですとか、認知症の方御本人とか御家族、また認知症サポーター養成講座を受けた方ですとか、地域の方が認知症の方々と一緒に活動するボランティア活動なので、チームオレンジって言葉を国や私たちも使っておりますが、ただその地域に入ると、そういう言葉を使わず、たとえば「〇〇の会」とかそういった名前をつけて活動しているところも多いのかなど。もしかするとチームオレンジという形で認識されてないことはあるんですが、活動している方々はいらっしゃるところです。ふじみ野ということなので、そちらの方のお話をさせていただきますと、ふじみ野市では二つの活動がされておりました、いわゆるオレンジカフェですとか、オレンジカフェの実施の支援ですとか、買い物の見守り等を実施しているということで、我々の方も市町村の方からお話を伺っております、ふじみ野市ホームページにもチームオレンジふじみんという名前をつけて掲載し、活動をしているというようなところになっております。他の市町村でも、こういった形でホームページ載せてたりとか、活動を支援しているところもありますので、チームオレンジという言葉で明確に出てこなかったかもしれませんが、そういった活動を今後も増やしていきたいと考えているところです。</p>
議長	<p>ありがとうございました。富家委員、今の御説明よろしいでしょうか。</p>
富家委員	<p>ありがとうございます。よくわかりました。知らないのは、周知をしていただくのか、それとも調べに行った方がいいのかという話になってくるとは思うので、ふじみ野市の方にもちょっと尋ねてみたいと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございました。その他は後ほど議事録整理しながら御意見について個別に御対応します。</p> <p>この段階で、議事の(2)、(3)、(4)も含めて、追加で御意見等ございますでしょうか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>

議長	<p>会議終了後で何か御意見ございましたら、メール等でいただければ対応させていただきますと思います。長時間にわたり会議、また御意見ありがとうございました。以上で本日の議事はすべて終了となりました。</p> <p>委員の皆様におかれましては、高齢者支援計画推進会議の委員として、3年間、計画の策定も含め様々な御意見・御提言をいただきました。ありがとうございました。任期が今月末となりますが、委員の皆様方には、引き続き本県の高齢者福祉行政の推進に、御意見も含めまして、御尽力・御協力をいただきますと幸いです。また委員の一部の方には、引き続き次期の委員も務めていただく方もいらっしゃると思いますが、その際には引き続きどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>
----	--